

平成26年度の学生派遣が始まりました！

平成26年度前期の学生派遣が8月より実施されました。

○インドネシア・バンドン工科大学 (ITB)

派遣学生： 8名（教育学研究科4名，工学研究科2名，理学研究科1名，工学部1名）

派遣期間：2014年9月8日（月）～9月21日（日）

実習高校：SMA N 22 Bandung, SMA Taruna Bakti

○タイ・キングモンクット工科大学トンプリ校 (KMUTT)

派遣学生：13名（教育学研究科2名，融合科学研究科3名，園芸学研究科1名，教育学部2名，工学部4名，園芸学部1名）

派遣期間：2014年8月25日（月）～9月6日（土）

実習高校：Wat Bhudhabucha School, Satriwatrakhang School

学生は、自分たちが行っている科学研究の魅力をタイやインドネシアの高校生に存分に伝えること、そして自らの英語でのプレゼン能力を高めることを目標に、入念に準備し日本を発ちました。

現地では、協定大学の教員及び学生らの強力なサポートの元に、授業に必要な機器や現地生徒及び教室の情報などを学校の先生方に自ら質問するなどして、準備を進めました。各地の現地の高校生は、非常にフレンドリーであり、学生はリラックスできました。

授業実践では、回数を重ねるごとに笑顔を見せる余裕が見られるようになりました。また、よりよい授業を実践したいという思いから、ホテルに戻ってから授業改善に取り組むなど、積極的な姿勢がみられ、現地での授業内容も向上していきました。

タイやインドネシアの高校生も本学学生の授業を楽しんでくれただけでなく、教員からも今後本プログラムを継続していきたいという高い評価をいただきました。

また、授業実践だけではなく、学生らは現地協定大学学生が企画する文化交流会や食事会などを通して、現地学生らとの交流も深めました。日本とは異なる異文化を受け入れ、積極的に入り込もうとする姿勢を見ることができました。海外で学ぶ同年代の学生に、良い刺激をもらうことができました。



◆実習風景（最新のテクノロジーを駆使して）



◆実習風景（難しい内容を分かりやすく説明）



◆実習風景（実験活動を通して実感を伴った理解を）



◆実習風景（相互作用を重視した授業実践）



◆授業を終えてクラス全員で



◆全校集会にて学生の自己紹介（表現する楽しさを実感！）



◆全校集会の様子

○タイ・マヒドン大学 (MU)

派遣学生：4名（教育学研究科2名，看護学研究科2名）

派遣期間：2014年8月25日（月）～9月6日（土）

実習高校：Nawaminthrachinuthit Satriwitthaya Phuttamonthon

実習では、高校生が予想以上に積極的に授業に参加してくれました。高校教員によると、いつもの授業ではこれほど活発に意見を言うということは少ないそうです。

脳腫瘍の患者とその家族というテーマで、学生たちは脳腫瘍患者のサポートのあり方について考えさせたり、患者や家族の実際の困難を体験できるような活動を取り入れたりして授業を実施しました。また本学学生は、看護学部博物館やマヒドン大学の大学病院も訪問し、現代医学と伝統医学の融合の過程について学びました。



◆脳腫瘍の一般的な症状について説明



◆日本とタイの位置関係を示している

○タイ・チュラロンコン大学 (CU)

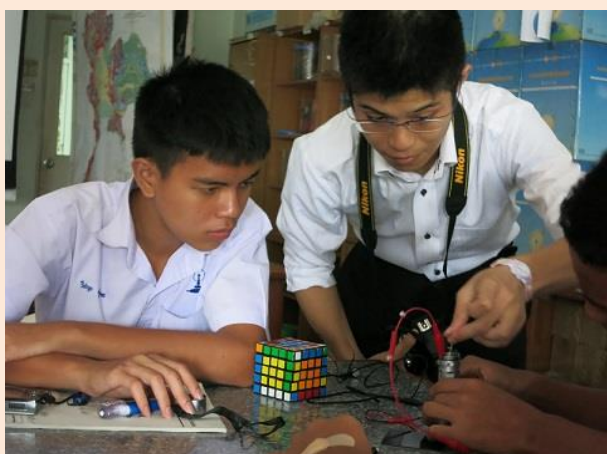
派遣期間：2014年8月18日(月)～30日(土)

派遣学生：9名(教育学部・研究科3名、工学研究科1名、融合科学研究科1名、園芸学研究科2名、人文科学研究科1名、理学研究科1名)

実習高校：チュラロンコン大学附属中等学校 (Chulalongkorn Demonstration Secondary School)

附属学校の教員からは、どの授業も基本からステップを踏んで先端研究を紹介する形になっており、高校生たちが現在学んでいる内容と大学の研究の関連が分かるため、高校生の学習意欲を促進するような内容になっていたという評価をいただきました。

改善点としては、大学教員(理学部)からは、実生活への応用の可能性をもっと具体的に示していればよいのではというアドバイスを受けました。



◆回路の仕組みを熱心に聞いている



◆研究内容の説明に熱心に聞き入る現地の生徒

○インドネシア大学(UI)

派遣学生：10名(教育学研究科3名、教育学部4名、工学研究科3名)

派遣期間：2014年9月8日(月)～9月20日(土)

実習高校：SMA Negeri 70, Depok(SMAN70) SMA Negeri1, Depok (SMAN1)

実習後のファイナルプレゼンテーションでは、大学教員から、今後さらに英語を使う機会を増やしていくべきだというコメントを受けました。また、授業の中身については高校生を対象にしたアンケート結果から、おおむね満足している。実験を取り入れた興味深い授業だったという回答を得ました。

また、印象に残っているのは、AUN(ASEAN大学ネットワーク)の事務局である当大学の国際課を表敬訪問したことです。国際課課長からも、彼らの研究トピック(①DNA・②風洞を用いた流体力学)が大変興味深く、今年度の実習に対する感謝のお言葉をいただきました。



◆風洞についての実習風景



◆DNAに関する実験